

地方診療所における検査体制の課題検証と整備に関する研究

研究分担者 伊藤俊広（独立行政法人国立病院機構仙台医療センター）

研究要旨

地方診療所における HIV 検査の現状と問題点の調査を行い、抽出された情報をもとに受検機会の拡大に伴い生じる課題を検討する。そして、地域の検査拠点として診療所を整備していくために必要な、検査・診断・告知に関する情報提供、拠点病院との連携支援、針刺し後の暴露後予防薬の配備等についての計画などを立案する。

平成 30 年 3 月末、本研究報告予定。

A.研究目的

地域の検査拠点として診療所を整備していくために必要な、検査・診断・告知に関する情報提供、拠点病院との連携支援、針刺し後の暴露後予防薬の配備等についての計画などを立案する

B.研究方法

1) 平成 28 年度

平成 28 年度末までに東北ブロック内の HIV 拠点病院を対象に施設にける HIV 検査についての問題点、暴露事故発生時の対処（実際に予防内服にかかる時間など）についての実態を知るためのアンケートを配布する。

2) 平成 29 年度

平成 29 年 6 月頃までに平成 28 年度アンケート調査を集計する。平成 29 年 7 月以降、拠点病院の協力を得ながら調査対象施設を拠点病院から一般診療所へ拡大し、地方診療所における HIV 検査の現状と問題点・受検機会の拡大に伴い生じる課題を検討する。これらの作業と並行して、協力の得られる施設に対して HIV 検査キットと予防薬 3 日分（予防服薬スターターキット）の配布を行う。年度内にアンケートの集計結果、配布された検査キット及び予防薬の使用状況、問題点などについて報告したい。